

別紙様式第2号（第5条関係）

学長候補者推薦書

令和元年10月18日

国立大学法人福岡教育大学
学長選考会議議長 殿

(ふりがな) 学長候補者氏名(年齢)	いいた しんじ 飯田 慎司 (61歳)
現職名(または最終職名)	福岡教育大学教育学部教授, 教育学部長, 副学長
<p>推薦理由</p> <p>飯田慎司氏は、昭和61年に福岡教育大学に助手として採用され、長年にわたり、教育、研究、社会貢献、学内運営で多くの業績をあげられています。</p> <p>教育に関しては、多くの卒業研究(196件)、修士論文(10件)の指導をされてきました。研究に関しては、平成3年度西日本数学教育学会賞を受賞されるなど、問題解決及び問題設定の分野では我が国を代表する研究者の一人です。また、「算数教育における児童の達成度に関する国際的な継続的プロジェクト」に参画され、関連する科学研究費(平成15年度～平成18年度、基盤研究(B))を研究代表者として獲得するなど数学教育の国際比較研究でも成果をあげておられます。</p> <p>教員研修のプロジェクト研究については、平成17年度に立ち上げた国語科、算数・数学科、英語科の教員研修教材作成の学内プロジェクトを進展させ、「平成18年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」(独立行政法人教員研修センター)に採択されるなど、先駆的なプロジェクトを推進されてきました。また、平成12年度～平成16年度にガーナ理数科教師教育セミナーを担当され、同国に2回派遣され研修指導をされるなど国際的な貢献もなされています。</p> <p>社会貢献に関しては、九州数学教育会会長(平成24年度～現在)、日本数学教育学会理事(平成23年8月～現在)など数学教育の研究や実践の先導的な役割を担っておられます。また、福岡県を中心に現職教員教育の充実・発展に、有識者及び指導者として多大な貢献をされてきています。</p> <p>学内運営に関しては、附属久留米小学校校長(平成22年度～平成24年度)、副学長(平成26年2月～現在)、教育学部長(平成27年度～現在)などの要職を歴任され、大学運営に多大な貢献をされています。</p> <p>以上のような業績に鑑み、飯田慎司氏は九州の教員養成の拠点としての福岡教育大学をリードする学長として最適であると考え、同氏を学長候補者として推薦いたします。</p>	
推薦者 所属	氏 名
役員	池田 修
学長付	相部 保美
教育心理ユニット	下 坪 靖 直
特別支援教育ユニット	藤 金 倫 徳
数学教育ユニット	清 水 紀 宏
<p>学長候補者として推薦されることに同意します。</p> <p>飯田 慎司 (印)</p>	

備考 規格は、A4判とする。

(注) この内容は、資料として公表されます。

別紙様式第3号 (第5条関係)

履 歴 書

令和 元年 10月 18日

氏 名 (ふりがな)		(いいだ しんじ) 飯 田 慎 司	年齢	61 歳
最 終 学 歴		広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻博士課程前期修了		
専 門 分 野		数学教育学, 算数・数学科教育		
学 位 称 号		教育学修士		
学 歴				
年 月		事 項		
昭和52	3	大分県立大分上野丘高等学校卒業		
昭和57	3	鹿児島大学理学部数学科卒業		
昭和59	3	広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻博士課程前期修了		
昭和61	3	広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻博士課程後期退学		
職 歴				
年 月		事 項		
昭和61	4	福岡教育大学助手教育学部		
昭和62	4	福岡教育大学講師教育学部		
平成 2	10	福岡教育大学助教授教育学部		
平成18	4	福岡教育大学教育学部教授 (現在に至る)		
平成22	4	福岡教育大学附属久留米小学校校長 (併任 平成25年3月まで)		
平成26	2	福岡教育大学副学長 (現在に至る)		
平成27	4	福岡教育大学教育学部長 (現在に至る)		
所 属 学 会		日本数学教育学会, 全国数学教育学会, 日本教科教育学会 他		
学界及び社会 における活動		九州数学教育会会長, 福岡県数学教育会会長, 日本数学教育学会 理事, 日本教科教育学会常任理事, 九州数学教育学会会長 他		
免許・資格等		中学校教諭一級普通免許状 (数学), 高等学校教諭一級普通免許状 (数学)		
賞 罰		平成3年度西日本数学教育学会賞受賞		
その他参考 となる事項		特になし		

備考 規格は、A4判とし、記載欄が不足する場合は、記載欄を適宜拡大し、必要に応じて別葉にわたり記載すること。

(注) この内容は、資料として公表されます。

別紙様式第4号（第5条関係）

業 績 書

候補者氏名 飯田慎司

（教育に関すること）

昭和61年からの32年間で196名の卒業研究の指導を、また10名の修士論文指導及び9名の修士論文指導補助を行った。「算数科指導法」及び「小専算数」用の教科書を九州地区の同科目担当教員と共同執筆するとともに、その編集を永年にわたって担当し、平成31年4月には編集代表となって「新訂算数科教育の研究と実践」を出版して大学（高等教育）の教育指導改善に貢献した。また、平成20年2月21日に大学院FDセミナーシンポジウム「大学院教育の改善について」を企画・運営した。

（研究に関すること）

平成3年度の論文「数学教育における反証主義の認識論的考察」で西日本（現全国）数学教育学会賞を受賞した。平成15年度～平成19年度、科研（基盤研究B）「算数教育における児童の達成度に関する継続的調査研究」及び研究成果公開促進費による研究に取り組み、「算数達成度に関する継続的調査研究（I）～（VI）」（共著）及び『達成度からみた算数・数学の授業改善』（青山社）で公表した。

平成17年度に学内プロジェクト「基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善の研究」を福岡県教育センターとの共同研究として実施し、国語科、算数・数学科、英語科のDVD研修教材を開発し、平成18年度に（独）教員研修センター（当時）の「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」に採択され全学的規模で研究した。さらに、平成26年度～平成27年度に全学的プロジェクト「資質・能力の効果的な育成に向けた教科教育の研究」を国語科、社会科、算数・数学科、理科の共同で実施した。この研究でもDVD教材を開発して教師教育に関する研究成果を得た。

（経営・管理運営に関すること）

附属久留米小学校校長（平成22年度～平成24年度）、副学長（平成26年2月～現在）として研究開発推進室長等を、教育学部長（平成27年度～現在）として教務委員長、実地指導・実務経験研修実施委員長等を務めた。

（その他（国際交流、地域貢献等））

平成12年度～平成16年度にガーナ理数科教師教育セミナー（同国の教員養成大学教員等を受け入れた研修）を行うとともに、同国に2回派遣され研修を指導した。

九州数学教育会会長（平成24年度～現在）、日本数学教育学会理事（平成23年8月～現在）、日本教科教育学会常任理事（平成30年度～現在）等を務めている。

備考 規格は、A4判1枚とする。

（注）この内容は、資料として公表されます。

別紙様式第5号（第6条関係）

所 信 表 明 書

候補者氏名 飯 田 慎 司



義務教育諸学校に関する教員養成機能における拠点的作用を果たすことを目指す第4期中期目標・中期計画の策定及び達成のために、これまでの実績を活かすとともに、学内外の共同体制を堅固にしながら、学長としてのリーダーシップを発揮していきます。

教員就職率90%を目指してきた本学の真摯な姿勢をさらに堅固なものにしていくことに邁進しますが、第4期中期目標・中期計画期間の後半には福岡県内の教員採用者数が減少に転じ、九州管内のそれも微減していく状況にあります。このような中で、教員志望の学生の正規採用を実現するためには、学生組織改革およびそれにともなる入試改革、Society 5.0の実現に向けた教育を可能にするカリキュラムの改革、さらには就職支援の一層の強化を行いたいと思います。そして、教員就職率の維持に貢献した教職員の皆様に相応の評価をしていきます。あわせて、教員就職者数に関して国内最大級の成果を挙げている本学の存在意義を、全国に向けてアピールしていく最前線に立って、粘り強く本学の運営をおこないます。規模拡大が必要となる教職大学院に関しても、「児童・生徒の資質・能力を育てる教師となるために大学院は福岡教育大学で学びたい」という志願者が増加していくように努めていきます。

実践型教員養成機能の充実や九州管内の教員研修の体系化を目指す試みのためには、本学教員が取り組む研究においても、学校教育における課題解決に資する実践型の研究を一段と評価していくべきであると考えています。私は、これまでの約6年間、研究開発推進室長を務める副学長としてそのための準備を行ってきました。これからはそれを実行に移すべく、科学研究費等によってご自身の研究に係る外部資金を獲得していただきながら、本学として推進する学校教育の課題解決に資する研究において成果をあげた教員の皆様に相応の評価をしていきたいと思ひます。そして、顕著な貢献が見られる教員の皆様のエフォートの実態を踏まえて、学長裁量経費等を活用しながら、貢献しやすくなる環境整備に尽力したいと考えています。その上で、教育総合研究所において、学校教育の課題解決に資する、さらにはSociety 5.0の実現のためにこれから変わっていくと思われる教育のあり方等に関して、全学的規模の共同研究を展開していきたいと思ひています。

九州教員研修支援ネットワークを今後も発展させて九州管内の教員研修の体系化に取り組む上でも、本学において学校教育における課題解決に資する実践型の研究を充実させておくことが肝要であり、そうした研究に取り組んだ本学教員の教員研修に関するシーズを、本ネットワークのシステムを通じて、九州管内の教育委員会および教育現場に発信していきます。このような取り組みが、本学に求められる社会貢献の姿であると思ひています。

学内運営に関する取り組みでは、理事や部局長を加えた教員人事委員会において、本学の第4期中期目標・中期計画の達成に尽力する教職員の人事考課を一層公正かつ適切に実施して、教職員から信頼される学長としてのリーダーシップを発揮することにより、教職員が一丸となる盤石な体制で、九州の教員養成における広域拠点大学としての役割を果たしていきたいと思ひています。

これまで5年間近くにおわたって教育学部長を務めてきましたが、教務委員会をはじめとする数多くの委員会や室会議で関係の教職員の皆様に多大なるご協力をいただきありがとうございました。教授会では、学内の融和を図ることを重要視するとともに、今後の本学の運営を考えて必要な改革を行ってきたつもりであります。私はこれらの経験を今後の学内運営に活かし、上述した内容や国立大学、国立教員養成大学・学部から求められている諸課題への対応に取り組んでいきたいと心に期しております。

備考 規格は、A4判とし、記載欄が不足する場合は、記載欄を適宜拡大し、必要に応じて別葉にわたり記載すること。

(注) この内容は、資料として公表されます。